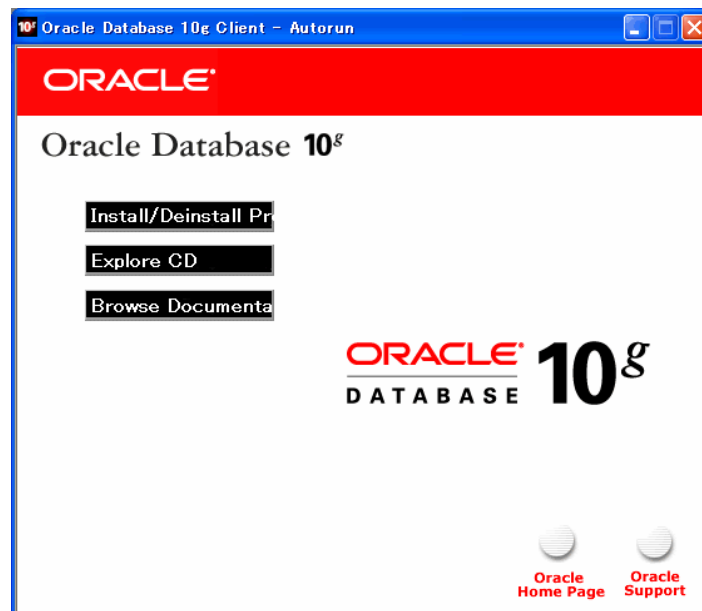


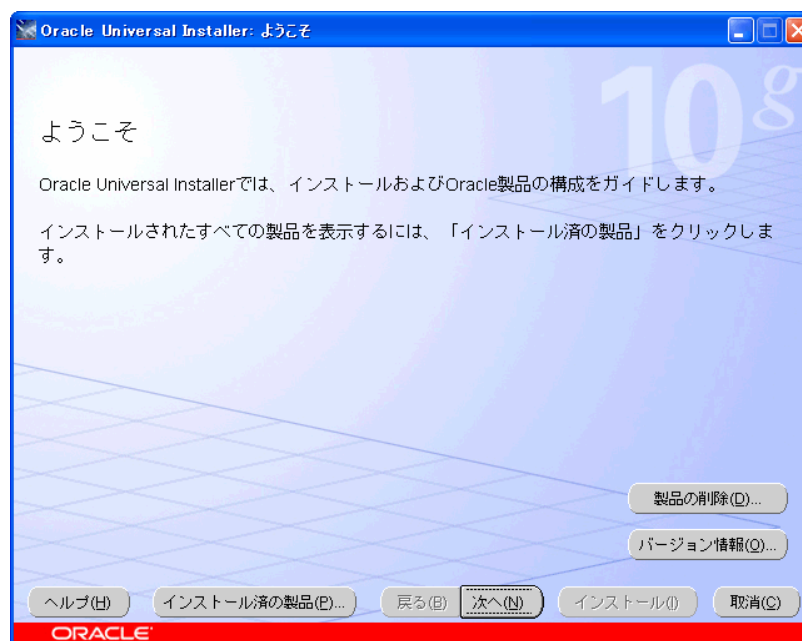
## Oracle 10g Client (10.1.0.2.0)のインストール方法

Oracle 10g Client (10.1.0.2.0)のインストール方法および設定方法の例を示します。

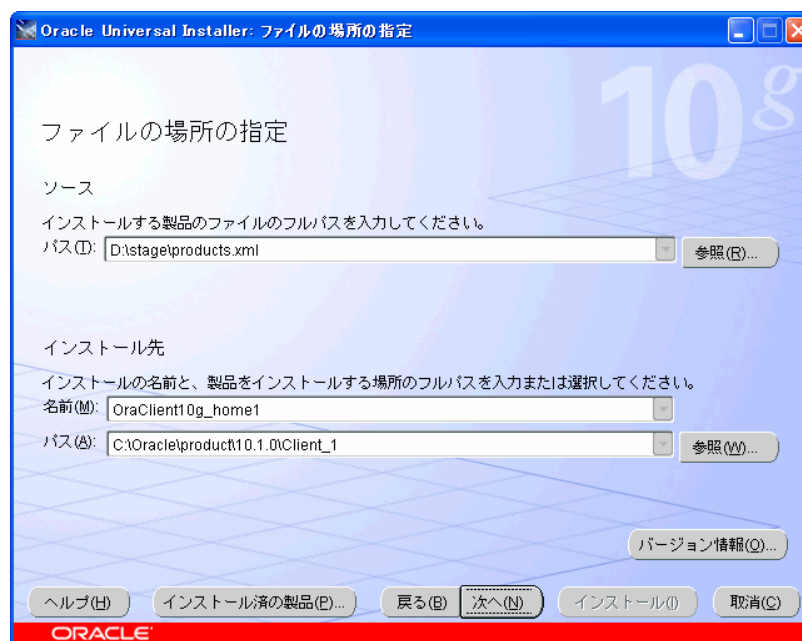
- 1) インストールするマシンの OS が日本語版の場合、コントロールパネルの**地域**で、地域情報として**“英語 (U.S.)”**を選択しておきます。なお、“**システムの標準の地域情報として設定**”オプションを選択する必要はありません。
- 2) CD-ROM ドライブに Oracle 10g Client の CD-ROM を挿入します。以下のような画面が表示されます。Install/Deinstall Products を選択します。



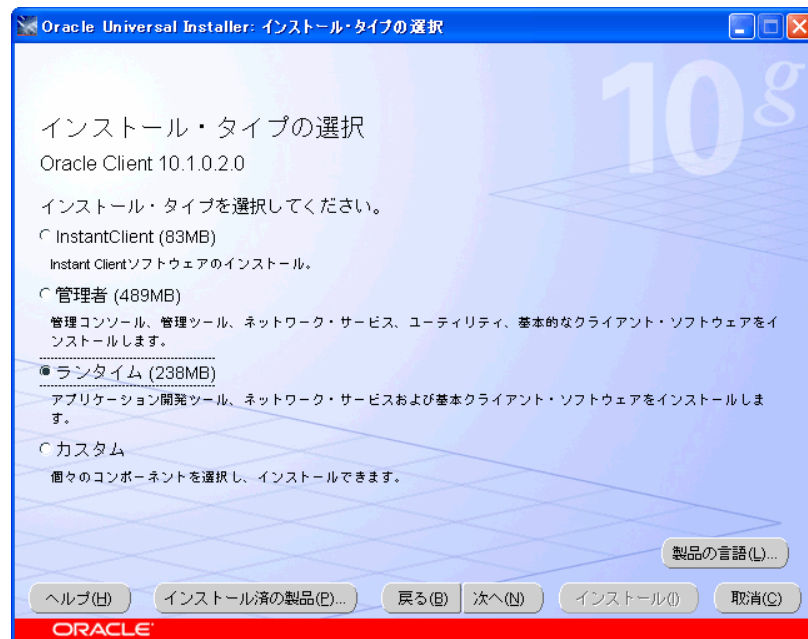
- 3) **次へ** ボタンを選択します。



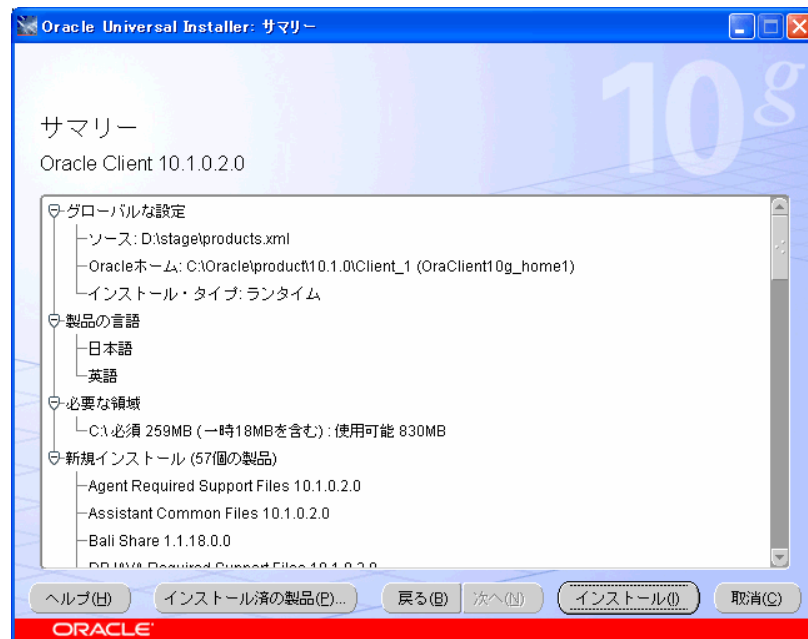
- 4) **インストール先**のパスに対してインストール先のパス名を入力します。**次へ** ボタンを選択します。



- 5) **インストール・タイプ**として**ランタイム**を選択し、**次へ**ボタンを選択します。



- 6) インストールの設定を確認し、**インストール**ボタンを選択します。インストールが開始されます。



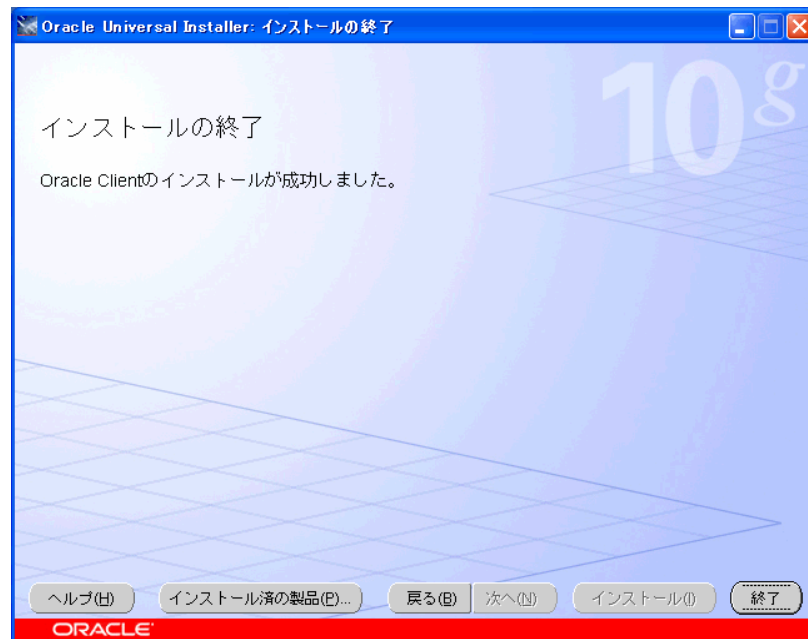
- 7) インストール処理終了後、Oracle Net Configuration Assistant が起動されます。**次へ** ボタンを選択します。



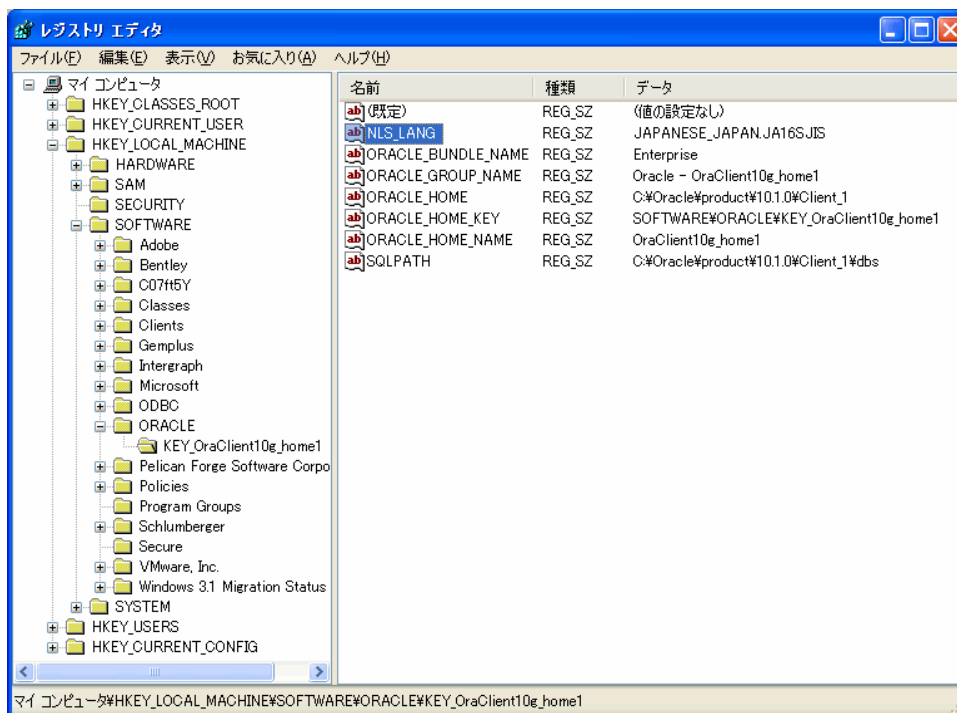
- 8) 以下のようなメッセージが表示されます。**終了** ボタンを選択します。



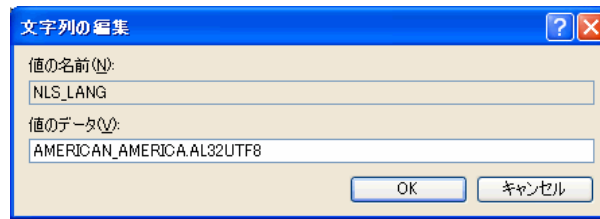
- 9) **終了**ボタンにより Oracle Universal Installer を終了します。



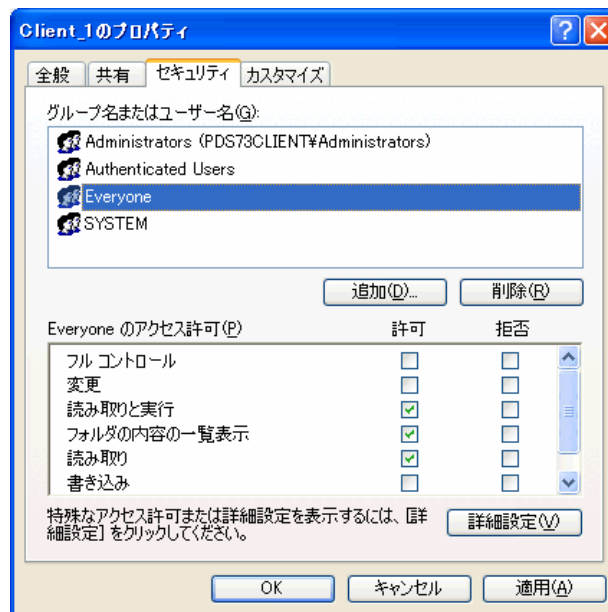
- 10) 日本語 OS 上に Oracle ソフトウェアのインストールを行った場合、NLS\_LANG の設定を変更します。コマンドプロンプト等からレジストリエディタ (regedit.exe) を起動します。HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\KEY\_OraDb10g\_home1 を表示します。



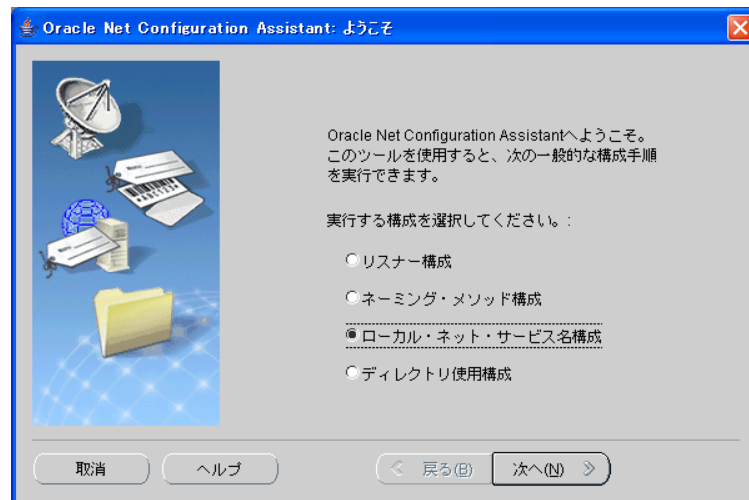
- 11) NLS\_LANG をダブルクリックします。値のデータに対して AMERICAN\_AMERICA.AL32UTF8 と入力し、**OK** ボタンを選択します。



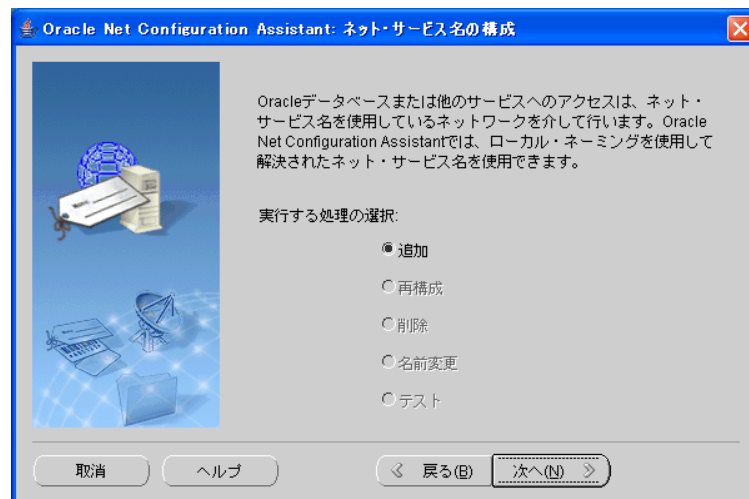
- 12) レジストリエディタを終了します。
- 13) Windows Explorer 等を使用して **C:\Oracle\product\10.1.0\Client\_1** フォルダ(インストール先)のプロパティを表示します。以下のように、**Everyone - 読み取りと実行 / フォルダの内容の一覧表示 / 読み取り**のアクセス許可を追加します。



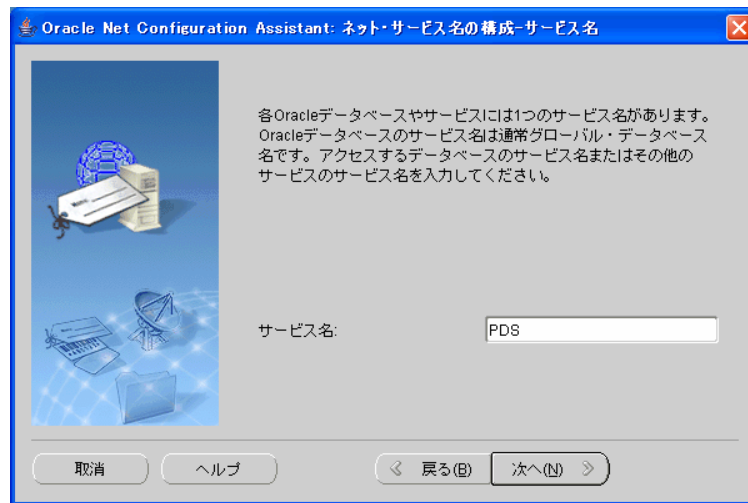
- 14) 続けてローカル・ネット・サービス名(またはデータベース・エイリアス名、ホスト文字列)の作成を行う場合、**スタート**メニュー → **すべてのプログラム** → **Oracle - OraClient10g\_home1** → **Configuration and Migration Tools** → **Net Configuration Assistant** を起動します。ローカル・ネット・サービス名構成を選択し、**次へ**ボタンを選択します。



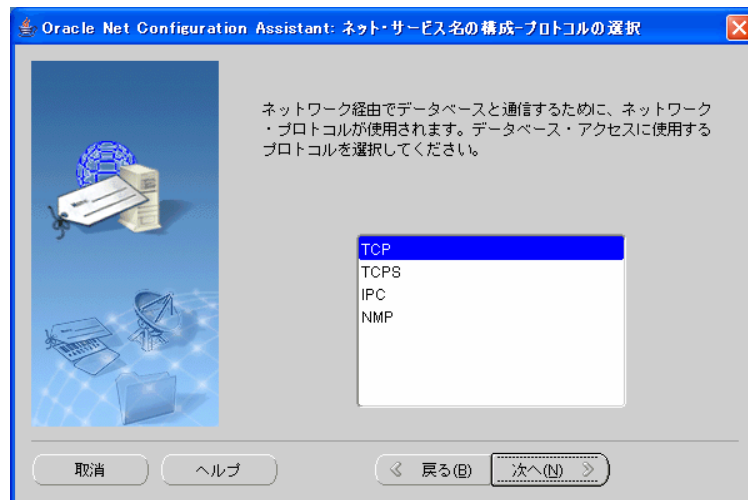
- 15) **追加**を選択し、**次へ**ボタンを選択します。



- 16) 接続先のデータベースサーバ上に存在するデータベースのサービス名(通常はグローバルデータベース名または SID)を入力します。**次へ** ボタンを選択します。

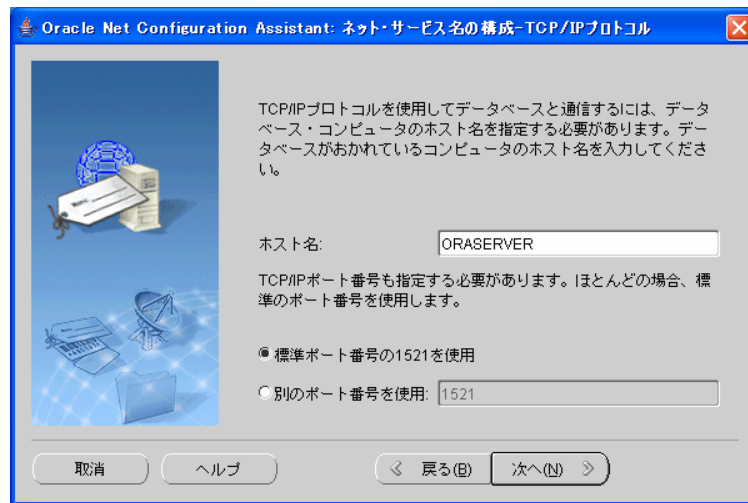


- 17) ネットワーク・プロトコルとして **TCP** が選択されている状態(デフォルト)で、**次へ** ボタンを選択します。

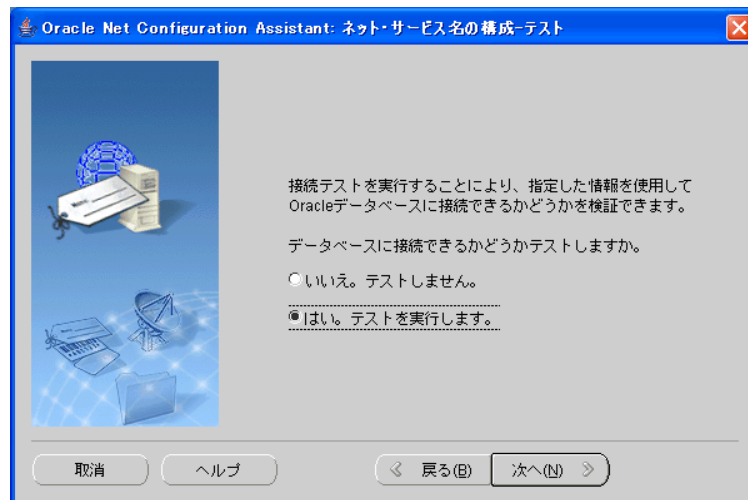




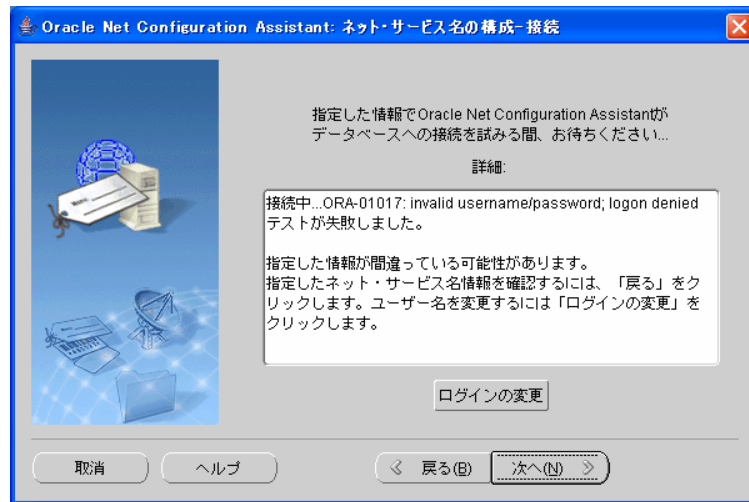
- 18) **ホスト名**に対してデータベースサーバ名を入力します。**標準ポート番号の 1521** を使用オプションが選択された状態(デフォルト)で、**次へ** ボタンを選択します。



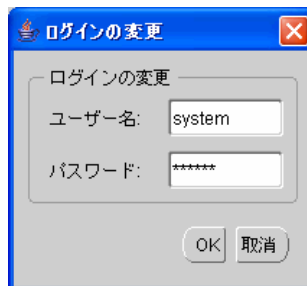
- 19) データベースサーバとの接続テストを行う場合、**はい。テストを実行します**。オプションを選択し、**次へ** ボタンを選択します。



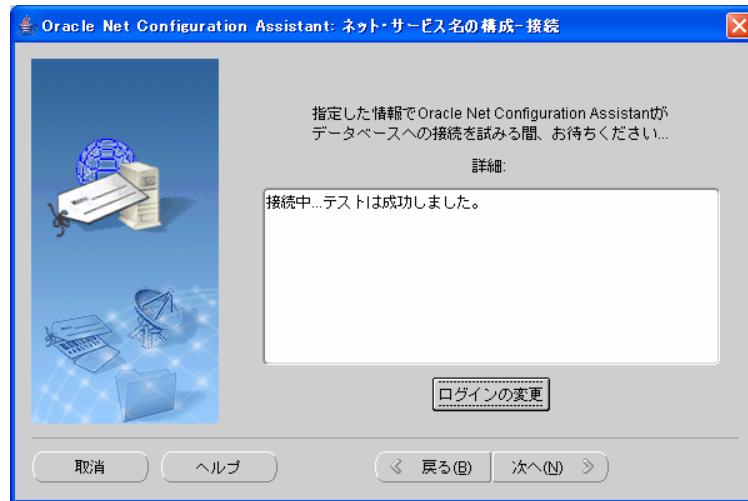
20) 通常、以下のようなエラーが発生します。**ログインの変更**ボタンを選択します。



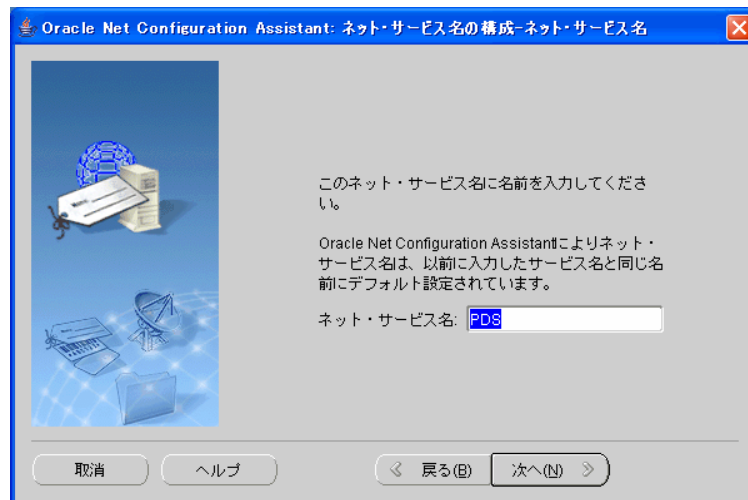
21) **ユーザ名**および**パスワード**に対して、適切な入力を行います。**OK**ボタンを選択します。



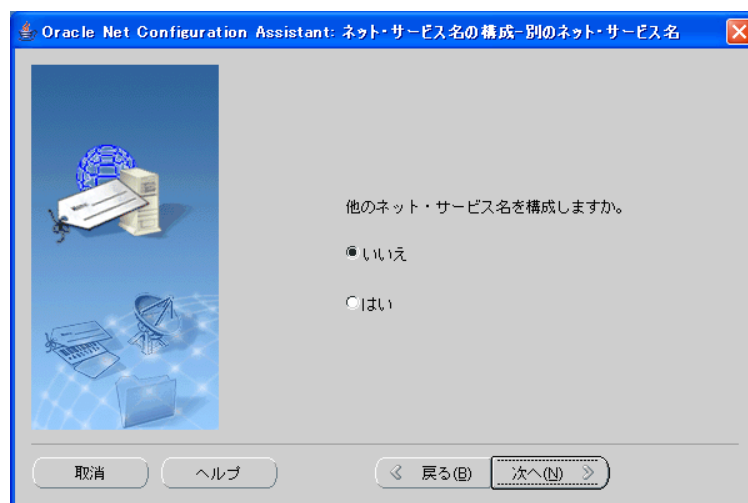
- 22) 接続テストが成功した場合、以下のようなメッセージが表示されます。**次へ** ボタンを選択します。



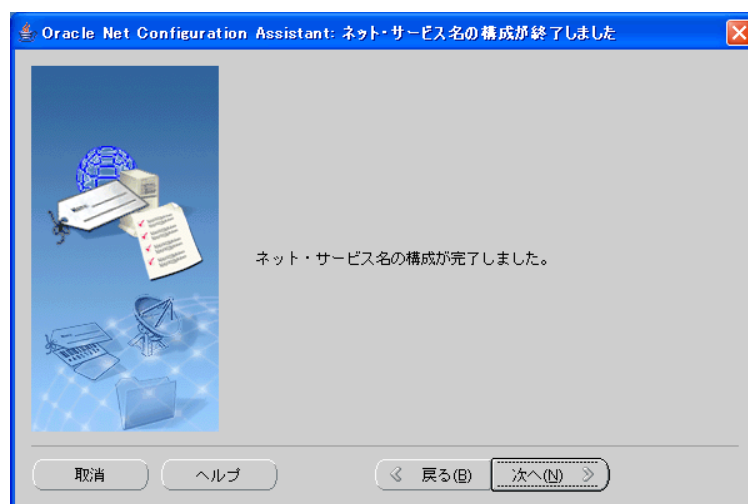
- 23) ここまでの設定に対してクライアントマシン上で付ける名前を**ネット・サービス名**に入力します。**次へ** ボタンを選択します。



24) いいえオプションを選択した状態で、**次へ** ボタンを選択します。



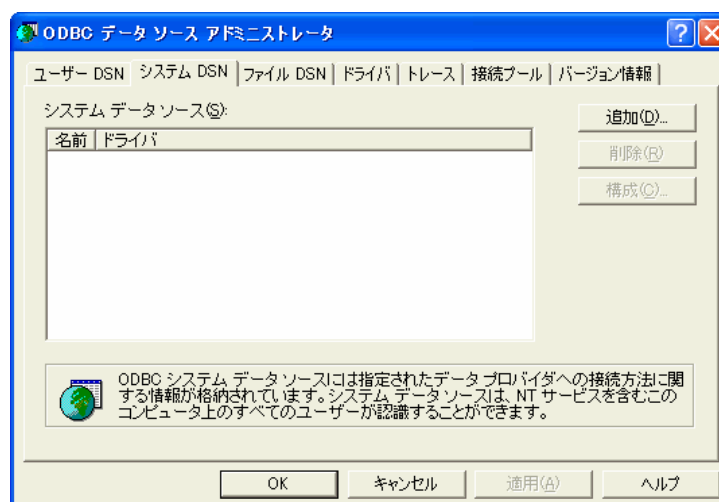
25) **次へ** ボタンを選択します。



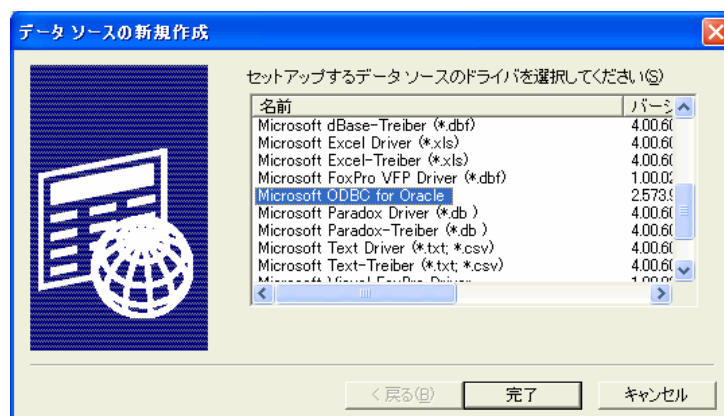
26) **終了** ボタンを選択します。



27) ODBC の設定(DSN の作成)を行う場合、**コントロールパネル** → **管理ツール** → **データソース(ODBC)**を起動します。**システム DSN** タブを選択し、**追加** ボタンを選択します。



- 28) **Microsoft ODBC for Oracle** 等の Oracle 用ドライバを選択し、**次へ** ボタンを選択します。  
なお、以降の設定方法は選択したドライバにより異なります。

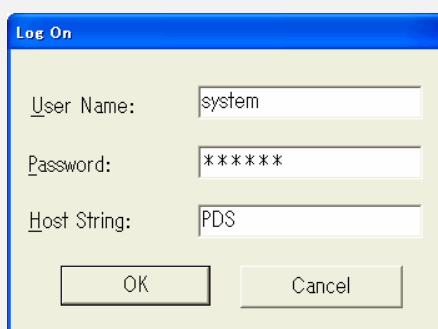


- 29) 以下の設定内容に対して付ける名前を**データソース名**に入力します。**ユーザー名**に対して、接続先データベース上のユーザ名を入力します。**サーバー**に対して、上記 Oracle Net Configuration Assistant により作成したローカル・ネット・サービス名を入力します。**OK** ボタンを選択します。



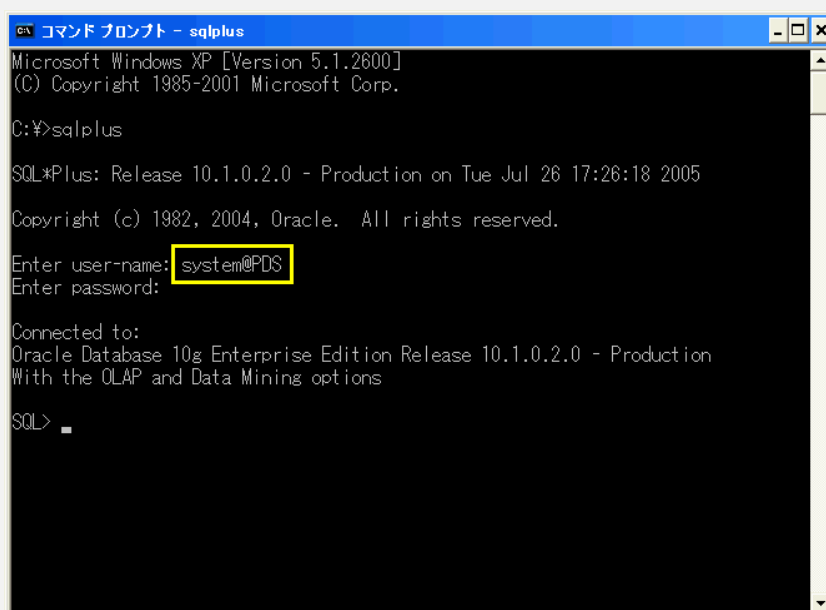
上記のようにローカル・ネット・サービスを作成すると、クライアントマシンからデータベースユーザ作成等の操作を行うことが可能です。

**スタート**メニュー → **すべてのプログラム** → **Oracle - OraClient10g\_home1** → **Application Development** → **SQL Plus** を使用します。Host String に対してローカル・ネット・サービス名を入力します。



A screenshot of a 'Log On' dialog box. It has a blue title bar and a light yellow background. There are three input fields: 'User Name' with 'system' entered, 'Password' with '\*\*\*\*\*' entered, and 'Host String' with 'PDS' entered. At the bottom, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

また、コマンドプロンプト上で **sqlplus** と入力し、テキスト版の **SQL\*Plus** を使用することもできます。ユーザ名入力時に@文字に続けてローカル・ネット・サービス名を指定します。



```
コマンドプロンプト - sqlplus
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\>sqlplus

SQL*Plus: Release 10.1.0.2.0 - Production on Tue Jul 26 17:26:18 2005

Copyright (c) 1982, 2004, Oracle. All rights reserved.

Enter user-name: system@PDS
Enter password:

Connected to:
Oracle Database 10g Enterprise Edition Release 10.1.0.2.0 - Production
With the OLAP and Data Mining options

SQL> .
```

クライアントマシンの NLS\_LANG 設定については、サーバ上のデータベース内でのキャラクタ・セットおよびデフォルト言語等の設定との間で共通(同じ設定内容)である必要があります。

クライアントマシン側の SQL\*Plus 上で、サーバ上のデータベースおよびクライアントマシンでの NLS\_LANG 関連の設定を確認することができます。

以下の SQL 文により、サーバ上のデータベース内での NLS\_LANG 関連の設定を確認することができます。

```
select * from nls_database_parameters where parameter
in ('NLS_LANGUAGE', 'NLS_TERRITORY', 'NLS_CHARACTERSET');
```

また、以下の SQL 文により、クライアントマシンの NLS\_LANG 関連の設定を確認することができます。

```
select * from v$nls_parameters where parameter
in ('NLS_LANGUAGE', 'NLS_TERRITORY', 'NLS_CHARACTERSET');
```

上記 SQL 文の出力結果が異なる場合には、クライアントマシン側の NLS\_LANG 設定を変更する必要があります。